

## 安全データシート

## オレイン酸カリウム

改訂日: 2024-05-09 版番号: 1

## 1. 化学品及び会社情報

## 製品識別子

製品名	: オレイン酸カリウム
CB番号	: CB1466311
CAS	: 143-18-0
EINECS番号	: 205-590-5
同義語	: オレイン酸カリウム, オレイン酸K

## 物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 洗剤、乳化剤
推奨されない用途	: なし

## 会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	: 400-158-6606

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 分類実施日

H24.3.1、政府向けGHS分類ガイダンス(H22.7月版)を使用

環境に対する有害性はGHS改訂4版を使用

## 健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性 区分2

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分2A

## 環境に対する有害性

水生環境有害性(急性) 区分1

水生環境有害性(長期間) 区分1

## 2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

## 絵表示

GHS07	GHS09

## 注意喚起語

警告

## 危険有害性情報

H315 皮膚刺激。

H319 強い眼刺激。

H335 呼吸器への刺激のおそれ。

H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

## 注意書き

### 安全対策

P261 粉じん / 煙 / ガス / ミスト / 蒸気 / スプレートの吸入を避けること。

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

P271 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

P273 環境への放出を避けること。

P280 保護手袋 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

### 応急措置

P302 + P352 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。

P304 + P340 + P312 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P332 + P313 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。

P337 + P313 眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。

P391 漏出物を回収すること。

### 保管

P403 + P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

P405 施錠して保管すること。

### 廃棄

P501 残余内容物・容器等は産業廃棄物として適正に廃棄すること。

## 2.3 他の危険有害性

なし

---

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
別名	: Oleic acidpotassium salt
化学特性(示性式、構造式 等)	: C18H33KO2
分子量	: 320.55 g/mol
CAS番号	: 143-18-0
EC番号	: 205-590-5
官報公示整理番号	: 9-1677; 2-611
安衛法	: -
化審法官報公示番号	: 2-611;9-1677

---

## 4. 応急措置

### 4.1 必要な応急手当

#### 一般的アドバイス

医師に相談する。この安全データシートを担当医に見せる。

#### 吸入した場合

吸い込んだ場合、新鮮な空気の場所に移す。呼吸していない場合には、人工呼吸を施す。医師に相談する。

#### 皮膚に付着した場合

石けんと多量の水で洗い流す。医師に相談する。

#### 眼に入った場合

多量の水で15分以上よく洗浄し、医師の診察を受けること。

#### 飲み込んだ場合

意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。口を水ですすぐ。医師に相談する。

### 4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

### 4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

---

## 5. 火災時の措置

### 5.1 消火剤

#### 消火剤

水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用すること。

### 5.2 特有の危険有害性

炭素酸化物, カリウム酸化物

### 5.3 消防士へのアドバイス

消火活動時には必要に応じて 自給式呼吸装置を装着する。

### 5.4 詳細情報

データなし

---

## 6. 漏出時の措置

### 6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

保護具を使用する。粉塵の発生を避ける。蒸気、ミスト、またはガスの呼吸を避ける。十分な換気を確保する。安全な場所に避難する。粉塵を吸い込まないよう留意。個人保護については項目8を参照する。

### 6.2 環境に対する注意事項

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。物質が排水施設に流れ込まないようにする。環境への放出は必ず避けなければならない。

### 6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

粉塵を発生させないように留意して回収し、廃棄する。掃いてシャベルですくいとる。廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。

### 6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 7.1 安全な取扱いのための予防措置

皮膚や眼への接触を避けること。粉塵やエアゾルを発生させない。粉塵が発生する場所では、換気を適切に行う。注意事項は項目2.2を参照。

### 7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。

### 7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

### 8.2 曝露防止

#### 適切な技術的管理

十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。休憩前や終業時には手を洗う。

#### 保護具

##### 眼 / 顔面の保護

EN166に適合するサイドシールド付き安全ゴーグル NIOSH (US) または EN 166 (EU) など

の適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。

##### 皮膚及び身体の保護具

手袋を着用して取扱う。使用前に、必ず手袋を検査する。(手袋外面に触れずに)適切に手袋を脱ぎ、本製品の皮膚への付着を避ける。適用法令およびGLPに従い、使用後に汚染手袋を廃棄する。手を洗い、乾燥させる。

選ばれた防護手袋は、EU指令2016/425の仕様と、それから派生する規格EN374を満たすものでなければならない。

フルコンタクト

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.11 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Dermatril® (KCL 740 / Aldrich Z677272, Size M)

飛沫への接触

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.11 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Dermatril® (KCL 740 / Aldrich Z677272, Size M)

データソース: KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, 電話 +49 (0)6659 87300, e-mail sales@kcl.de,

試験方法: EN374

EN374とは違った条件の下で、溶液の中、または他の物質と混ぜて使われる場合は、EC認可手袋の供給業者に問い合わせる。この勧告は単なる助言であり、予想される用途の特定状況に精通した産業衛生専門家並びに安全管理者により評価されなければならない。任意の使用方法について許可を受けていると理解すべきではない。

#### 身体のプロテクト

不浸透性衣服、特定の作業場に存在する危険物質の濃度および量に応じて、保護装置のタイプを選択しなければならない。

#### 呼吸用保護具

不快物質への暴露には、P95型 (US) 又はP1型 (EU EN 143) 呼吸用粒子保護具を使用する。より高度な保護には、OV/AG/P99型 (US) 又はABEK-P2型 (EU EN 143) 呼吸用保護具カートリッジを使用する。NIOSH (US) またはCEN (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた呼吸用保護具および部品を使用する。

#### 環境暴露の制御

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。物質が排水施設に流れ込まないようにする。環境への放出は必ず避けなければならない。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

### Information on basic physicochemical properties

形状 固体(CRC (91st, 2010))

色 帯黄色または帯褐色(Merck (14th, 2006))

臭い ほんのりした石鹼臭(HSDB (2002))

臭いのしきい(閾)値 データなし。

pH 9(HSDB (2002))

235-240°C(農薬安全情報 日本農薬学会誌第24巻第4号(1999))

581.58°C(HERA(2002))

60°C(140F)(CC)(NITE総合検索 (Access on Nov. 2011))

データなし。

データなし。

データなし。

0.0000000000078 mmHg(25°C)(SRC Phys Prop (Access on Nov. 2011))

データなし。

>1.1(NITE総合検索 (Access on Nov. 2011))

水:25 g/100 cc(HSDB (2002))

4.315 g/100 ccアルコール(HSDB (2002))

3.92 (EST)(SRC Phys Prop (Access on Nov. 2011))

データなし。

データなし。

データなし。

#### 融点・凝固点

235-240℃(農薬安全情報 日本農薬学会誌第24巻第4号(1999))

#### 沸点、初留点及び沸騰範囲

581.58℃(HERA(2002))

#### 引火点

60℃(140F)(CC)(NITE総合検索 (Access on Nov. 2011))

#### 蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし。

#### 燃焼性(固体、気体)

データなし。

#### 燃焼又は爆発範囲

データなし。

#### 蒸気圧

0.00000000000078 mmHg(25℃)(SRC Phys Prop (Access on Nov. 2011))

#### 蒸気密度

データなし。

#### 比重(相対密度)

>1.1(NITE総合検索 (Access on Nov. 2011))

#### 溶解度

水:25 g/100 cc(HSDB (2002))

4.315 g/100 ccアルコール(HSDB (2002))

#### n-オクタノール/水分配係数

3.92 (EST)(SRC Phys Prop (Access on Nov. 2011))

#### 自然発火温度

データなし。

#### 分解温度

データなし。

#### 粘度(粘性率)

データなし。

---

## 10. 安定性及び反応性

### 10.1 反応性

データなし

### 10.2 化学的安定性

推奨保管条件下では安定。

### 10.3 危険有害反応可能性

データなし

### 10.4 避けるべき条件

データなし

### 10.5 混触危険物質

強酸化剤

### 10.6 危険有害な分解生成物

有害な分解生成物が火があるとき生成される。 - 炭素酸化物, カリウム酸化物

その他の分解生成物 - データなし

火災の場合:項目5を参照

---

## 11. 有害性情報

### 急性毒性

#### 経口

本物質製剤のラットLD50値は >5000 mg/kg (農薬安全情報 日本農薬学会誌第24巻第4号(1999))との情報があるが、製剤の本物質の含有量が不明なため分類できない。GHS分類:分類できない

#### 経皮

本物質製剤のラットLD50値は >2000 mg/kg (農薬安全情報 日本農薬学会誌第24巻第4号 (1999))との情報があるが、製剤の本物質の含有量が不明なため分類できない。GHS分類:分類できない

#### 吸入:ガス

GHSの定義による固体である。GHS分類:分類対象外

#### 吸入:蒸気

データなし。GHS分類:分類できない

#### 吸入:粉じん及びミスト

本物質製剤のラットLC50値は 5.61 mg/L(農薬安全情報 日本農薬学会誌第24巻第4号 (1999))との情報があるが、製剤の本物質の含有量が不明なため分類できない。GHS分類:分類できない

### 皮膚腐食性及び刺激性

ウサギの皮膚に本物質製剤0.5 mLを4時間の閉塞適用した試験(農林水産省指針、Draize法)で、パッチ除去後1時間に全例で中程度ないし重度の

紅斑、24時間には痂皮形成が認められ、痂皮は6~9日目に脱落してびらんとなり、その後治癒傾向を示した。その結果、試験物質はウサギの皮膚組織に対して中程度の一次刺激性を有すると判断されている(農薬安全情報 日本農薬学会誌第24巻第4号(1999))ことから区分2に相当する。

GHS分類:区分2

### 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

ウサギの眼に本物質製剤0.1 mLを適用した試験(農林水産省指針、Draize法)において、角膜混濁が適用1時間後に全例で観察され、21日後においても1例では持続した。虹彩の充血および腫脹(評点1)が1例で認められ、また、発赤(発赤評点1)が適用1時間後に全例に認められたが、1例を除き16日目までに回復した(農薬安全情報 日本農薬学会誌第24巻第4号(1999))。以上より、試験物質はウサギの眼粘膜に対して中程度の刺激性を有すると判断されたことから、区分2Aに相当する。GHS分類:区分2A

### 呼吸器感作性

データなし。GHS分類:分類できない

### 皮膚感作性

モルモットのマキシマイゼーション試験において、本物質製剤で感作後に誘発処理した動物に顕著な反応は認められず、皮膚感作性はないものと判断されている(農薬安全情報 日本農薬学会誌第24巻第4号(1999))が、陽性率の記載もなく、詳細不明なため分類できない。GHS分類:分類できない

### 生殖細胞変異原性

in vivo試験のデータが無く分類できない。なお、in vitro試験として、エームス試験およびCHL細胞を用いた染色体異常試験で陰性の結果(NTP DB (1991)、農薬安全情報 日本農薬学会誌第24巻第4号(1999))が報告されている。GHS分類:分類できない

### 発がん性

データなし。GHS分類:分類できない

### 生殖毒性

データなし。GHS分類:分類できない

### 特定標的臓器毒性(単回ばく露)

データ不足。なお、粉塵の吸入により鼻と咽喉の刺激、咳およびくしゃみを引き起こす(HSDB (2002))との記述があるが、気道刺激性に関しては詳細は不明である。GHS分類:分類できない

### 特定標的臓器毒性(反復ばく露)

データなし。GHS分類:分類できない

### 吸引性呼吸器有害性

データなし。GHS分類:分類できない

---

## 12. 環境影響情報

### 12.1 生態毒性

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性

EC50 - Daphnia magna (オオミジンコ) - 0.57 mg/l - 48 h

### 12.2 残留性・分解性



データなし

### 12.3 生体蓄積性

データなし

### 12.4 土壤中の移動性

データなし

### 12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

---

## 13. 廃棄上の注意

### 13.1 廃棄物処理方法

#### 製品

免許を有する廃棄物処理業者に、余剰物で再使用不可の溶液として処理を依頼する。可燃性溶剤に溶解または混合し、アフターバーナーとスクラバーが備えられた化学焼却炉で焼却する。汚染容器及び包装製品入り容器と同様に処分する。

---

## 14. 輸送上の注意

### 14.1 国連番号

ADR/RID（陸上規制）：3077 IMDG（海上規制）：3077 IATA-DGR（航空規制）：3077

### 14.2 国連輸送名

ADR/RID（陸上規制）：ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.

(Potassium oleate)

IMDG（海上規制）：ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.

(Potassium oleate)

IATA-DGR（航空規制）：Environmentally hazardous substance, solid, n.o.s. (Potassium oleate)

### 14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）：9 IMDG（海上規制）：9 IATA-DGR（航空規制）：9

### 14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）：III IMDG（海上規制）：III IATA-DGR（航空規制）：III

### 14.5 環境危険有害性

ADR/RID: 該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR（航空規制）: 該当  
該当

### 14.6 特別の安全対策

### 14.7 混触危険物質

強酸化剤

詳細情報

危険物（液体 >5Lまたは固体 >5kg）を有する内装容器を含む、単一容器および複合容器に必要とされる

EHSマーク(ADR 2.2.9.1.10, IMDGコード 2.10.3)

---

## 15. 適用法令

船舶安全法

有害性物質

航空法

その他の有害物件

化審法

優先評価化学物質

---

## 16. その他の情報

略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA: 国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

RID: 鉄道による危険物の国際輸送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

LD50: 致死量 50%

参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>

【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>

【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>

【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>

【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>

[pageID=0&request\\_locale=en](http://www.echemportal.org/echemportal/index?)

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dquv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>

【11】 HSDB - 有害物質データベース、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>

【12】 IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>

【13】 IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>

【14】 Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

**免責事項:**

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本MSDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。